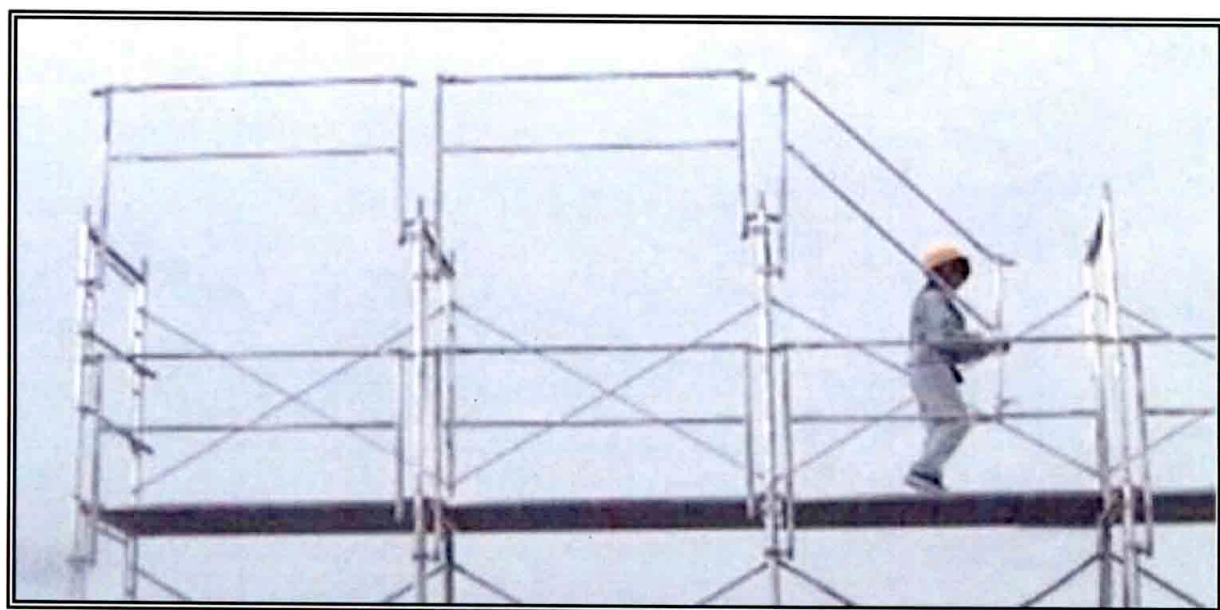


KYC 枠組足場用 手すり枠

先行手すり枠 FSTW (社)仮設工業会
認定製品

組立・解体手順

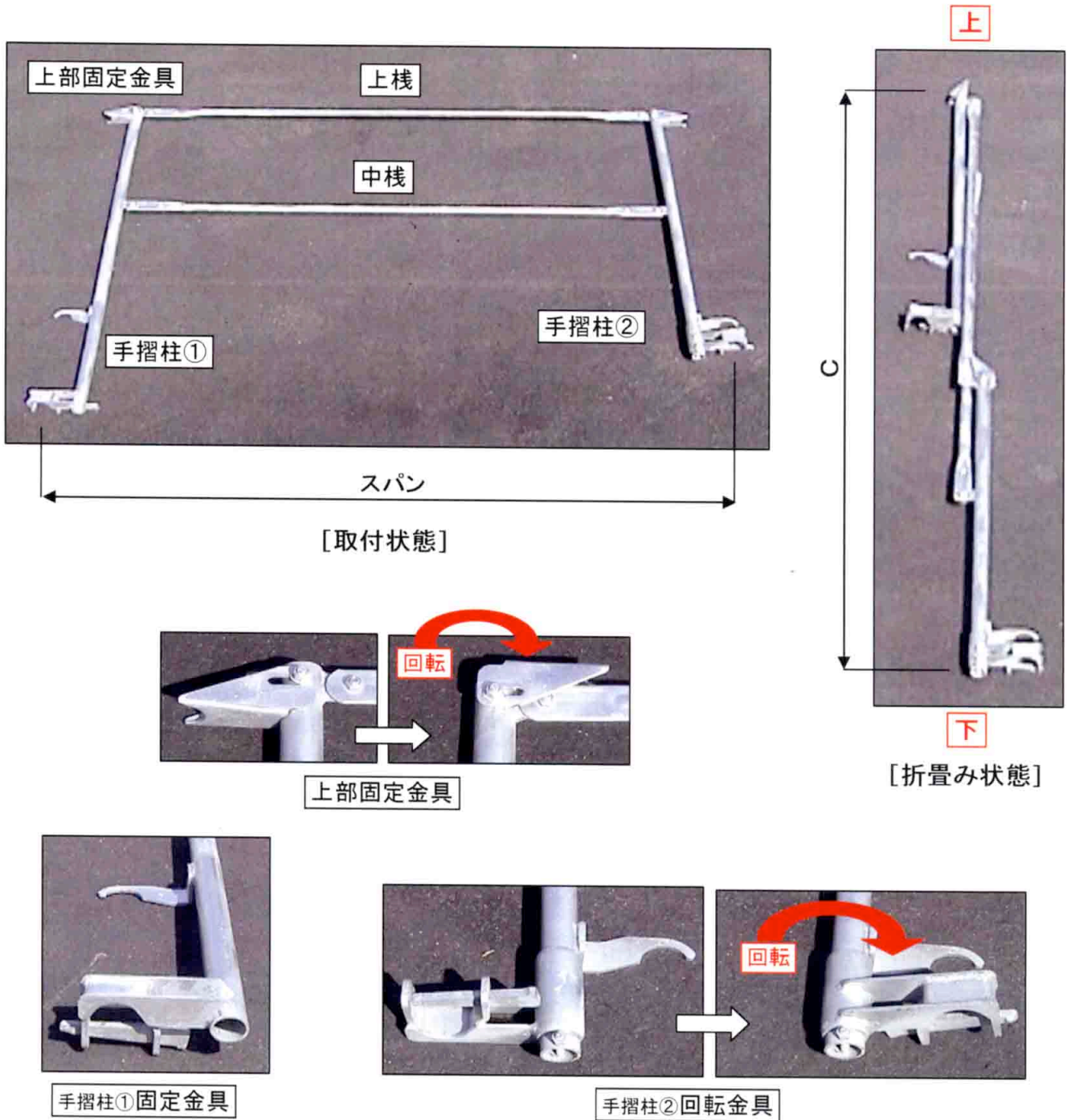
使用基準



働きやすい安心感のある足場

KYC 光洋機械産業株式会社

【各部の名称等】



【寸法表】

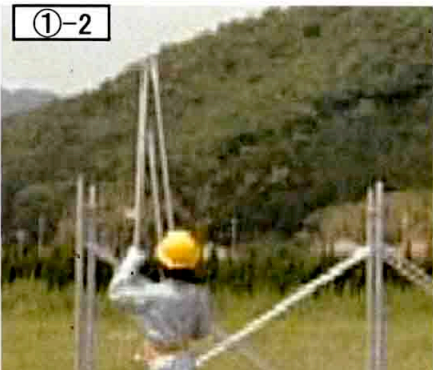

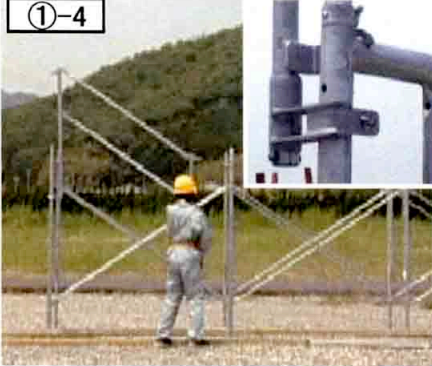
【インチサイズ】



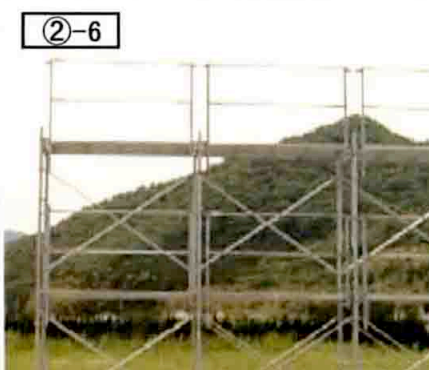





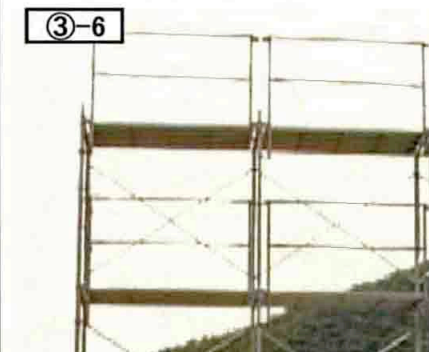
型式	スパン(mm)	C (mm)	重量(kg)
TWK-18	1,829	2,615	10.0
TWK-15	1,524	2,310	9.3
TWK-12	1,219	2,005	8.6
TWK-9	914	1,700	7.8
TWK-6	610		7.1

社団法人仮設工業会「枠組足場用手すり枠」認定製品






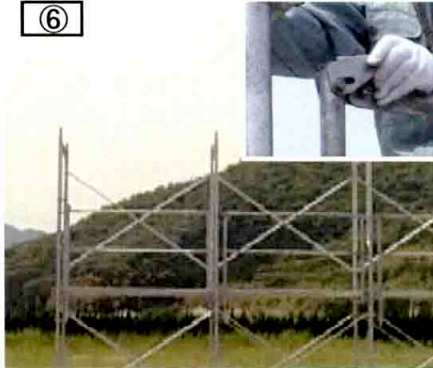
- ◇第1種:手すりとしての性能を有し、かつ、安全帯取付設備としての性能を有するもの。
- ◇交さ筋かいに代えて、交さ筋かいを取り外して使用するタイプ。

手すり据置き方式 【組立手順】

<p>①-1</p> 	<p>①-2</p> 	<p>①-3</p> 
<p>1層目の建わく、交さ筋かいを組み立てます。</p> <p>1層目の交さ筋かいは前踏み・後踏み両側に取り付けます。</p>	<p>手すり枠を取り付けます。 1層目は建わくの外側から取り付けます。</p> <p>手すり枠は床付き布わく設置前に左端のスパンから取り付けます。</p>	<p>折り畳んだ手すり枠上方の手摺柱①のフックを横架材に掛け、コの字金具を脚柱にはめ込み、クサビを挿入します。</p>
<p>①-4</p> 	<p>①-5</p> 	<p>①-6</p> 
<p>下方の手摺柱②を持ち上げ、フックを横架材に掛け、回転金具を回転させながらコの字金具を脚柱にはめ込み、クサビを挿入します。</p>	<p>手摺柱①、②のクサビを打ち込み脚柱に固定します。</p>	<p>手すり枠を取付完了後、床付き布わくを設置します。</p>
<p>②-1</p> 	<p>②-2</p> 	<p>②-3</p> 
<p>2層目の建わく、交さ筋かいを組み立てます。 建わくを設置する際は、脚柱が干渉しないように、固定金具を上回転させた状態にしておいてください。</p>	<p>建わく、交さ筋かいを組み立て後、固定金具を下に回転させ、手すり枠上部を脚柱に固定します。</p>	<p>2層目の手すり枠を下層より手渡しで取り付けます。</p> <p>手すり枠を手渡す際は手摺柱①を上にして手渡してください。</p>

 <p>②-4</p>	 <p>②-5</p>	 <p>②-6</p>
<p>①-3,4,5 と同様に折り畳んだ手すり枠上方の手摺柱①を取り付けた後、下方の手摺柱②を持ち上げて取り付けます。</p> <p>手すり枠は床付き布わく設置前に左端のスパンから取り付けます。</p>	<p>手摺柱②を取り付ける際、フックは脚柱ジョイントをかわして横架材に掛けます。</p>	<p>手すり枠を取付完了後、床付き布わくを設置します。</p>
 <p>③-1</p>	 <p>③-2</p>	 <p>③-3</p>
<p>②-1 と同様に3層目の建わく、交さ筋かいを組み立てます。</p> <p>安全帯のフックは上棧に掛け、手すり枠1枠につき1人の使用としてください。</p>	<p>②-2 と同様に建わく、交さ筋かいを組み立て後、固定金具を下に回転させ、手すり枠上部を脚柱に固定します。</p>	<p>3層目の手すり枠を足場の内側から取り付けます。</p>
 <p>③-4</p>	 <p>③-5</p>	 <p>③-6</p>
<p>①-3,4,5 と同様に折り畳んだ手すり枠上方の手摺柱①を取り付けた後、下方の手摺柱②を持ち上げて取り付けます。</p> <p>手すり枠は床付き布わく設置前に左端のスパンから取り付けます。</p>	<p>手摺柱②を取り付ける際、フックは建わくの横架材をかわして掛けます。</p>	<p>手すり枠を取付完了後、床付き布わくを設置します。</p> <p>順次、③-1～6を繰り返して、上層の組立を行ないます。</p>

手すり据置き方式 【解体手順】

<p>①</p> 	<p>②</p> 	<p>③</p> 
<p>床付き布わくを取り外します。</p>	<p>手すり枠はを取り外します。</p> <p style="border: 1px solid red; padding: 2px;">手すり枠は床付き布わく取り外し後、右端のSPANから取り外します。</p>	<p>クサビを緩めます。</p> <p style="border: 1px solid red; padding: 2px;">クサビは完全に抜かず、手で抜ける程度に緩め、挿入した状態にしておきます。</p>
<p>④</p> 	<p>⑤</p> 	<p>⑥</p> 
<p>手摺柱②のクサビを抜き、フックは横架材をかわして、下方に折り畳みます。</p>	<p>手摺柱①のクサビを抜き、手すり枠を取り外します。</p>	<p>安全帯を使用し、建わく、交さ筋かいを取り外します。 建わくを取り外す前に手すり枠上部の固定金具を起こしておきます。</p>

順次、①～⑥を繰り返して、下層の解体を行います。

手すり先送り方式 【組立手順】

※先送り方式による組立も可能です。

<p>①</p> 	<p>②</p> 	<p>③</p> 
<p>手すり枠を取り付けた後踏み側に交さ筋かいを取り付けます。 手すり柱②を取り外し、下方に折り畳みます。</p>	<p>手すり柱①を取り外します。</p>	<p>手すり枠を上層へ手渡し、盛り替えて先送りします。</p>

【枠組足場用手すり枠の使用基準】

1. 適用範囲

この基準は、社団法人仮設工業会が認定する枠組足場用手すり枠について適用する。

2. 組立方法等

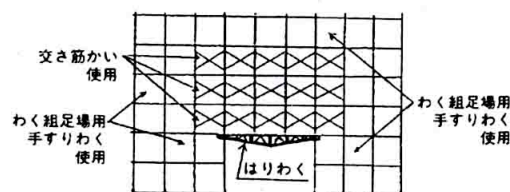
枠組足場において、枠組足場用手すり枠を使用する場合は、労働安全衛生規則等に定められる足場に関する規定によるほか、次によるものとする。

(1) 共通事項

- ① 枠組足場用手すり枠を用いて足場を組み立てる場合は、床付き布わくを各層各スパンに用いること。
- ② 安全帯の取付設備として使用できるものは、第1種の枠組足場用手すり枠とすること。
- ③ 枠組足場用手すり枠を親綱、控え、壁つなぎ、足場板等の支持点または資材等の荷揚げ等のつり元としないこと。
- ④ 枠組足場用手すり枠には材料等を立てかけないこと。
- ⑤ 枠組足場用手すり枠には乗らないこと。
- ⑥ 枠組足場用手すり枠の各部は、著しい損傷、変形又は腐食のないものとする。
- ⑦ 足場の組立及び解体時において、最上段に設置された枠組足場用手すり枠は、荷取り作業等においても取り外さないこと

(2) 交さ筋かいに代えて、交さ筋かいを取り外して使用するタイプの枠組足場用手すり枠を使用する場合

- ① 組み立てたときの足場の高さは、45m 以下とすること。
- ② 建わく(標準わく及び簡易わく)の許容荷重は、34.3kN とすること。
- ③ 枠組足場の一部にはりわくを用いる場合にあっては、はりわくの上部(はりわくの端の上部を含む。)の3層以内には、枠組足場用手すり枠を用いないこと。



- ④ 枠組式型わく支保工には使用しないこと。ただし、交さ筋かいを全層全スパンに取り付けた場合にはこの限りでない。

(3) 第1種の枠組足場用手すり枠を安全帯取付設備として使用する場合

- ① 枠組足場用手すり枠1枠につき1人の使用とすること。
- ② 安全帯ランヤードのフックは、枠組足場用手すり枠の手すり材にかけること。
- ③ 枠組足場用手すり枠を設置した作業床と衝突の恐れのある床面または機械設備等との垂直距離が3.5m 以下の場合、安全帯を必要としない措置を講ずるか、安全帯の性能を考慮し、落下阻止時の床面等との衝突について安全性を確認した上で使用すること。